

「月刊！スポ協ナビ」2月26日（木）～豊橋卓球協会の方
方に『卓球』の魅力について伺いました～

（出演） 豊橋卓球協会 会長 伊藤幹夫

理事 山本忠夫

豊橋市スポーツ協会 金田英樹

FMとよはし いいだまき



（いいだ）

はい始めました。「月刊！スポ協ナビ」毎月第4週目のこの時間にお届け
しております。10月10日が体育の日だった時代を経て、毎年10月の第二

月曜日に体育の日が変わり、そして名前も体育の日からスポーツの日に、それに伴って2020年「豊橋市体育協会」も「豊橋市スポーツ協会」となりました。今、豊橋市でどんなスポーツの大会を開催されているのか、どんなスポーツが熱いのか、そんな話題を通してスポーツの魅力をお伝えしていくコーナーです。はいというわけで、今日も豊橋市スポーツ協会から金田さんにお越しいただいております。こんにちは。

(金田)

こんにちは。よろしくお願ひします。

(いいだ)

なんか急に春らしくなってきた感じですね。

(金田)

本当に暑いくらいですね。

(いいだ)

風が心地いいという感じですけど、まだここからちょっと寒くなるっていうみたいですけど。

(金田)

寒いのと暖かいのとかを繰り返しですね。昨日は雨降りましたけど、雨降ってほしいですね。水が心配なので。雨はあんまり好きではないですけど、こういった時ですから、必要ではありますね。

(いいだ)

はい。さあどうですか？この 1 ヶ月。

(金田)

そうですね。2月が終わるんですけども、やはりウィンタースポーツの季節ってということになると思うんですね。豊橋にはアクアリーナ豊橋があって、アイススケートができるという、そういうまちですので、以前にも、スケート協会の方にも出ていただいて、お話聞いたことがありますよね。今スケート教室をアクアリーナ豊橋の方でやってまして、これで2月も終わると思いますが、3月コースもありますので、幼児から一般の方まで、スケート協会の指導者の方に教えていただけますので、ぜひスポーツ教室の方に参加をしていただけるといいかなと思います。

(いいだ)

今年の冬季オリンピックも終わったばかりということで、今回の冬季オリンピックは本当に感動の多い大会だったんですね。

(金田)

つい先日終わったばかりで、17日間でしたが、閉会式もあり、選手団の解団式も先日ありました。メダルを取った人たちがテレビで紹介されてましたね。日本選手は本当に活躍されて24個のメダルを獲得され、これまでの最高の成績だったということで、本当に良かったと思います。いろんな感動の

場面があったなというふうに思いますね。

(いいだ)

これで豊橋のスケート人口もまた増えるのかもしれないですね。

(金田)

そうですね。本当スケートの種目盛り上がりましたからね。フィギュアスケートもそうですし、スピードスケートもそうですし。これでまたパラリンピックが3月に入ると始まりますので、これも楽しみで、またまたテレビの前にいる時間が増えてしまいそうです。

(いいだ)

本当に。時差があるので、辛いところですね。

(金田)

そうですね。朝に大体テレビでやってくれてますね。

(いいだ)

はい、楽しんでいきたいと思います。

(金田)

それでは、本日のゲストの方にいきたいと思いますけれども、今回も当協会の加盟団体の方をお呼びしております。豊橋卓球協会からお二人の方にお越しただいております。いいださんからご紹介よろしく願いいたします。

(いいだ)

かしこまりました。さあ本日のゲストお二人をご紹介します。豊橋卓球協会から会長の伊藤幹夫さん。そしてもう一方、同じく豊橋卓球協会の広報担当でいらっしゃいます山本忠夫さんです。

（伊藤、山本）

よろしくお願いたします。

（いいだ）

山本さんはホームページの管理などをされているんですね。はい、よろしくお願いたします。まずはその豊橋卓球協会についてお聞きしていきたいなと思うんですけども、卓球協会さんいつ設立されたんですか？

（伊藤）

はい、豊橋卓球協会が設立したのは、昭和24年の4月なんですけど、同時に体育協会の方に今のスポーツ協会さんですけども、加盟しております。当時は民間の卓球場を開設して、そこで腕を磨く人も数多く見えました。また、協会の事務所もそこに入っております、豊橋市の卓球界に果たした貢献は大きいものがあると思います。また過去に全国大会を数多く誘致してきた実績もありますし、協会主催の大会も数多く行っております。全国の大会でも選手が実績を上げてきており、現在に至っているところでございます。

（いいだ）

はい、ありがとうございます。伊藤さん、本当にね、豊橋の卓球シーンって

というのはとても盛り上がっているというか、感じるところがあるんですけども、やっぱり全国レベル国際レベルの選手をね、多く輩出してるといふこともあるんですよ。本当にそういう意味でとても非常に盛んであると思うんですけども、松下兄弟なんかが代表ですね。

(伊藤)

そうですね。地元で特に豊橋市からオリンピックに出場された松下浩二さん。この方の出身高校が桜丘高校なんですけど、非常に好献度が大きいと思います。全国大会でも桜丘高校は何度も出場して優秀な成績を数多く重ねてきました。当時の松下兄弟を指導されていたのが、松井つとむ先生で、もうすでにお亡くなりになりましたけども、当時の桜丘を強くしよう、強豪校にしようということで、色々と奔走されたと聞いております。そのおかげで、現在桜丘高校の知名度が広がり、全国から有望な強い選手が集まるようになってきて、現在に至っているというところですよ。

(いいだ)

そういうことですね。そんな豊橋卓球協会さんなんですが、現在その協会に加盟されている会員数っていうのはどのくらいいらっしゃるんですか？

(伊藤)

そうですね。特に会員制度というのを取ってはいないんですけども、一応大会を開催するにあたりましては、三河と遠州の地区の学校とかクラブチー

ム、企業さんなど関係団体に案内を送りまして、募集の方をしているところ
です。構成としては、大体概算ですけども、男性が約 900 名程度、それか
ら女性が 700 名程度で、年齢層は非常に幅拾いですが、小学生から
今では 80 歳後半の方まで幅広く大会の方には参加されて、そのうち小中学
生がおおよそ 700 名程度です。

(いいだ)

そうなんですね。ここに座ってる〇〇ちゃんも卓球をやったっていうこと
もあるんですけど、やっぱり子供たちが部活なんかでやってるっていうのが
大きいんですかね。

(伊藤)

やっぱり大きいですね。今なかなかの部活の方も最近・・・・そこらへん
ちょっとね。なんとか小中学生を増やしていきたいという風に考えていると
ころなんですけど。

(いいだ)

本当にここからね、部活動っていうのがあまり行われなくなるってなった時
に、今まで卓球をこう楽しくやっていた子供たちがどういう風にしていくの
かっていうのがちょっと心配ではありますけれども。さあ、そんな卓球協会
含めて、卓球をされる皆さんというのはどこで練習されてるんですか？

(山本)

そうですね。一番多いのは豊橋市内の各地区体育館です。それに加えて、トレーニングセンターや青少年センターあと生涯学習センターあるいは夜間は一般に解放されている小中学校の体育館で楽しんでいる方が大勢いると聞いています。

(いいだ)

なるほど、大人でもやってらっしゃる方が多いわけですね。そういう方はやっぱり昼間はお仕事があるから、夜の時間で楽しんでらっしゃる。

(山本)

ラージボールの方は昼間は仕事をされてないので、昼間各地区体育館でクラブチームを作ってやられているチームがあります。

(いいだ)

なるほど、そのラージボールっていうスポーツも最近すごく注目されていますね。また後ほど詳しく聞いていきたいなと思うんですけども。山本さん、豊橋でも硬式卓球、ラージボール卓球をやってる方多いと思うんですけども、このルールの違いっていうのは何か大きなものがあるんですか？

(山本)

はい。従来からやられている硬式卓球に対して、この近年ラージボール卓球がシニア世代に大人気になっています。その理由というのがこの硬式卓球と違って、第一にボールの直径が公式の40ミリに対して44ミリとやや大き

いこと。本当に見た目ではっきり違いますけど、あと柔らかいんです。打球のスピードが出にくい特徴があります。色も硬式の白色に対しオレンジ色になってます。

(いいだ)

あ、これ決まってるんですか

(山本)

はい。第二に台の中央に貼ってあるネットの高さが硬式よりも 2 センチ高いです。パチンと打っちゃうとネットにかかりやすいので、高くないと。第三にラケットの表面に貼ってあるゴム製のラバー が粒粒っていうんですか、摩擦がからないようになって、回転の変化がつけにくいという違いがあります。

(いいだ)

結構いろいろあるんですね。そういう違いがね。

(山本)

硬式卓球に比べてボールが大きくて 柔らかい。それからネットが高いことで打球スピードが抑えられて、回転もかかりにくいということから、初心者でもラリーが続きやすいんです。特に学生時代の経験がない人でも気軽に卓球を楽しめるスポーツということで、シニア世代を中心にラージボール卓球を始める人が近年非常に増えています。

(いいだ)

なるほど、そういうことなんですね。それこそテレビで卓球の試合なんかを見ていると、一瞬でもう決まってしまうみたいな、ボールが早すぎてね。よく見えないみたいなところもあると思いますけれども。さすがにラリーを一般の人ができるかっていうとなかなかってなった時に、やっぱりラージボールが人気になっていく理由っていうのがすごくわかりますね。そんな協会が行っている行事、大会も含めて色々あると思うんですけれども、硬式卓球、ラージボールといろいろあるんですよ。どんな大会になるんでしょうか。

(山本)

そうですね。協会の行事としては、今年度は10の大会を開催しています。主な大会としましては、「一万人卓球豊橋大会」で、これは体育の日制定を記念して県下一斉に一万人参加を目標に開催しています。その他、「市民スポーツ祭卓球大会」それから「市民スポーツ祭ラージボール卓球大会」などを開催しています。いずれも歴史のある大会です。また、豊橋市民だけでなく、オール三河地域や遠州地域が参加する個人戦、あるいは団体戦などの参加者が約700名を増える大会なども開催しています。

(いいだ)

そうなんですね。今の一万人卓球豊橋大会これね、スポーツの日で私たちのイベントと被ってくるところがあって。参加がちょっとかなわなかったって

いう、はい卓球の子に来てほしかったんだけど、これがあったからなかなか参加ができないってということもありましたけどもね。でもどうなんですか？この一万人の参加ってというのは。

（伊藤）

そうですね。愛知県全体で一万を集めるってというのが最初の趣旨でやってましたんで、なかなか1万人ってというのは厳しいところなんですけど。

（いいだ）

いやでもこれもね、浸透具合によると思うので。

（金田）

よく考えられたなと私は思うんですよね。県ってということで、1万人っていうわかりやすい人数でね。なかなかいい企画じゃないかなって私は思いましたけどね。

（いいだ）

あとは知名度を上げていって、そんな面白い大会あるのって言ってね。参加してくださる皆さんも増えてくるのかなと思うので、これからですよ。

（伊藤）

そうですね。

（いいだ）

いやでもね、本当にそういう楽しい大会も含めて、結構その遠州と東三河っ

ていう地域で、合同で力を合わせているところもあったりするんですか。

(伊藤)

そうですね。大会自体は三遠大会という形で、三河と遠州と合同で大会は行っています。

(いいだ)

なるほど、浜松を飛び越えて、向こうの磐田市には強豪揃いというか有名な方もたくさんいらっしゃるんですね。そこら辺も含めて、底上げに繋がっていくといいですよ。さあ、そんな卓球なんですけれども、スポーツ協会主催のスポーツ教室としても行われているんですよ。

(山本)

はい、一般を対象とした教室は、硬式卓球、ラージボール卓球、それぞれ 7 日間定員 40 名で行っています。また、夏休みのジュニアコースということで、市内の小中学生を対象に 6 日間 定員 50 名で行っています。この受講者の皆さんが生涯スポーツとして継続できればいいなというふうに思っております。

(いいだ)

はい、ありがとうございます。リピーターの方は多いんですか？

(山本)

はい、去年やって、またというチームの人たちも多いです。

(いいだ)

やっぱりそれだけ楽しいってことですよね。これからね、もっともっと卓球人口を増やしていくためにも、色々と活動をされていくと思うんですけども、今後どんな方面に力を入れていされる予定ですか？

(山本)

はい、そうですね。生き生き健康卓球というような、健康増進を目標とした卓球教室の開催など、特に初心者、シニア世代が楽しんで卓球ができる環境を整備していきたいと考えています。そのために年間の卓球教室予定一覧表を作成したり、市内で卓球ができる公共、民間の場所をまとめたマップ作成など、市民へ卓球に関する情報をより知っていただくために、豊橋卓球協会のホームページなどに掲載する活動を進めていきたいというふうに考えております。

(いいだ)

はい、ありがとうございます。〇〇ちゃんもちょっと見てますね。チェックが入っておりますけども、いやでも、生涯スポーツとして皆さんに楽しんでいただくために、なるべく早い時期から、卓球に親しむっていうのもすごく大事になるかなと思うんですけども。どうでしょう。これから卓球を始めたいなっていうお子さんたちに、アドバイスというか。そのお父さん、お母さんたちも含めて、何歳ぐらいから始めるのがベストなのかな？

(伊藤)

色々あるんですけど、将来オリンピックに出て活躍したいっていうそういう高い目標があれば、もう最初からクラブチームに入ってやるのが一番ベストだと思うんですけども、まずは卓球の基礎を教えてくれる卓球教室でボールに触れて、卓球っていうのはどういう感じかということを理解してもらってから、そこで学んで、その後にクラブチームとか同好会とか部活動に進むのが一番ベストじゃないかなと思います。始める年齢としては、早ければ早いほどいいんですけど、小学生の低学年から始めるのが将来的にはベストだと思います。

(いいだ)

そうなんですね。そう本当に才能がね、どこにあるかってなかなかね、お父さんお母さんにもわからないところだと思うんでね。やっぱりやってみないと、まずは体験から。もしかしたらそこにね、お子さんの才能が眠ってるかもしれないっていうことでね。ぜひまずは体験からやっていただきたいなと思いますけれども。さあ最後になりましたけれども、その卓球の魅力や楽しさについて、お二人からラジオの前の皆さんにお伝えいただきたいなと思うんですけども、まずは山本さんからお願いできますか？

(山本)

はい、そうですね。近年、余暇の増大や健康志向の高まりなどから、スポー

ツの楽しみ方も様々になってきています。 その中で卓球は特に少ない人数、最低 2 人でしかも小さな卓球台、狭いスペースでできること。あと、雨が降っても天候に関係なくできる。このようなことから非常にやりやすいスポーツですし、また用具も非常に手軽なコストで購入できて、子供からお年寄りまで参加できる生涯スポーツとして、 今後さらに多くの方に親しまれていくものと思います。

(いいだ)

はい、ありがとうございます。 それでは伊藤さんからお願いします。

(伊藤)

はい、まずですね、定年後にスポーツを始めたい方、それから主婦の方で会いた時間に体を動かしたいと思っている方には最適です。今各地区体育館では多くのクラブチーム、それから同好会が活動されていますので、一度見学されてはいかがでしょうか。 また豊橋市スポーツ協会主催の卓球教室が毎年開催されておりますので、気軽に参加してみてもいいかですか。ぜひお待ちしております。

(いいだ)

はい、ありがとうございます。 室内競技っていうのもありますので、本当に手軽に始めやすいかなって思います。 皆さんぜひ一度体験にいらしてください。 さてさて、金田さん、第 72 回厚美半島駅伝競争大会が、無事大盛況の

うちに開催されたと思いますけれども、その辺のところいかがでしたか？

(金田)

はい、2月1日でしたが、この時期、気温も低くて、風はどうしても出てしまうんですけれども、比較的穏やかな一日となって、絶好のコンディションとも言える中で行われました。男子が58チーム、女子が13チーム合計71チームの選手、1チーム5人編成ですけれども、渥美半島を縦断する形で走り抜いてくれました。結果は京都外大西高校というチームが男女とも優勝という結果でした。この京都外大西高校というのは結構強豪チームなんですけど、去年も出ていただいていますけれども、強かったですね。男子女子チームそれぞれ1位から3位まで、また区間賞も表彰をさせていただきました。事故もなく大会を無事終わられましたので、ご協力いただきました。各企業の皆様またボランティアの方々に厚くお礼を申し上げたいと思います。また来年も引き続きやることになるかと思っています。

(いいだ)

そうですね。本当に大人気の大会で、遠くからも遠征をしてきてくれる。

(金田)

そう。駅伝っていうのはやっぱり道路規制とかもあたりとか、またそれぞれのチームで人数を確保しないといけないので、難しさはあるんですけれども、やはり人気はあるのかなというふうに思いますので、我々も、来年の準

備を進めていけたらなというふうに思います。そして、その次はいよいよ 3 月 22 日ですけれども、鈴木亜由子杯穂の国豊橋ハーフマラソンが開催されます。あと 1 月弱ということで、準備真っ最中というところですが、すでに多くの皆さんの参加申し込みいただいております。前日には小学生の 800 メートル競争も予定をしております。昨日とその前に記者発表しましたが、ゲストランナーにももいろクローバー Z の高城れにさんが今年も走っていただけることが決まりました。3 回目の参加ということになります。それともう一つはですね。日本郵政の陸上部の選手が同じく参加をいただけることになりまして そのハーフマラソンの前日の 800 メートル競走に参加していただけます。当然当日のハーフマラソンの方も参加をいただけるということですので、楽しみにしていただけたらなというふうに思います。

(いいだ)

今年も盛り上がりそうですね。高城さんも 3 年連続で参加してくださるってなんでなんかよっほど気に入ってくださってね。おもてなしがいいんですよ。絶対そうですね。これはね。

(金田)

記者発表のコメントの中で言ってるんですが、前は少し悔しい思いをしてしまいましたが、今回は楽しく最後まで笑顔で走り切りたいです。声をかけ

合いながら皆さんと頑張りたいです。よろしくお願ひしますというようなコメントをいただけてますので、ぜひ見に来て応援していただけたらなっています。皆さんの応援もおもてなしの一つとなりますので。今年度最後のマラソンイベントになりますので、ぜひとも応援の方よろしくお願ひしたいと思います。それともう一点ですね。4月に入ってからの話なんですが、毎年恒例のプロ野球セリーグ公式戦。今回は中日ドラゴンズと広島東洋カープの試合が、例年は5月なんですけれども、1ヶ月早く日程が変わりまして、4月14日に岩田市民球場で行われます。先行販売に続いて2月28日からチケットの一般販売が始まります。スポーツ協会の方でもS席のみなんですが、発売をする予定ですので、チケットを買いたいという方は、スポーツ協会までお越しいただければ結構です。あと中日新聞販売店とかチケットピアとかでももちろん発売しておりますので、ぜひ早めに行っていい席を取って見ていただけるといいかなと思います。

(いいだ)

そうですね。これはもうスポーツ協会のホームページの方にいろいろ情報が載っている？

(金田)

ごめんなさい。そこまで確認はしてこなかったんですが、近日中には載るってということになります。

(いいだ)

はい、そこら辺のところも含めて今年はアジア大会の関係もあるのかな、いろいろなスポーツイベントが変則的になっているということも、皆さんご承知いただきながら、早まるということなのでぜひ見に行っていたきたいなと思います。はい、詳しくは豊橋スポーツ協会のホームページの方をチェックしながら色々チケットなんかも購入をしていただきたいなと思います。その他、スポーツ教室などもスポーツ協会のホームページでそちらはいつも通り載せておりますので、ご確認の上 参加の方よろしく願いいたします。さあ、こんな感じでお届けしてまいりましたが、今日は豊橋卓球協会から会長の伊藤幹夫さん、そして広報担当の山本忠夫さんにお越しいただいて、豊橋卓球協会についてお話を伺いました。金田さんもありがとうございました。

(伊藤、山本、金田)

ありがとうございました。